「森林遺伝育種」投稿・執筆要領

【本誌の目的と掲載される内容】　「森林遺伝育種」は、森林遺伝育種学会が定期的に刊行する和文の研究情報誌である。森林遺伝学と林木育種学および林木育種事業の発展、ならびに関連技術手法の向上と普及を図ることを目的として、森林遺伝と林木育種およびそれらに関連する分野に関する記事が掲載される。

【記事の種類】　記事の種類は原著論文、総説、短報、解説、話題、意見、資料、その他に分けられる。このうち、原著論文、総説および短報は査読による審査を行う。

原著論文：新たに得られた研究結果を示し、考察したもの。未公表のものに限る。

総　説　：各分野の現状を総括し、今後の展望を記述したもの。未公表のものに限る。

短　報　：新規性がありかつ公表の緊急性が高いもの、新たに開発したもしくは既存のものを改良した研究方法や技術で実用性が高いもの、または既成の知見を確認する報告や貴重な測定結果など資料的な価値が高いもの。いずれも未公表のものに限る。

解　説　：新規あるいは既存の概念、理論、手法、知見を解説したもの、または国際誌に公表された論文や博士論文を紹介したもの。

話　題　：研究や事業への取り組み、その他の活動などを紹介したもの。

意　見　：研究、事業、教育などに関する意見を記述したもの。

資　料　：学会記事や各種資料。

その他　：編集委員会が認めた上記以外の記事。

【投稿資格】　投稿は会員に限る。共著の場合、原著論文、総説および短報の原稿では筆頭著者か責任著者のどちらか、それら以外の原稿では筆頭著者が必ず投稿時に会員でなければならないが、他の著者には非会員を含むことができる。ただし、編集委員会が認めたときはこの限りではない。

【投稿と査読】　原著論文、総説および短報は会員の投稿による。原著論文、総説および短報の原稿は担当編集委員のもとで複数の査読者が査読を行う。査読の結果、内容に問題があるときには、投稿者に修正を依頼する。編集委員会が掲載の可否を判断する。

解説、話題、意見、資料、その他は編集委員会からの執筆依頼にもとづく投稿、あるいは会員の投稿による。提出された原稿を編集委員が確認し、編集委員会が掲載の可否を判断する。掲載する号については、原則、編集委員会が決定し、著者らによる指定はできない。

【ページ数制限】　記事の長さは、原則として、刷り上がりページ数で原著論文は 8 ページ以下、総説は 12 ページ以下、短報は 6 ページ以下とし、編集委員会の判断によりページの超過を認めることがある。解説は 6 ページ、話題、意見、資料が 4 ページまでとし、超過は認めない。その他の記事は、編集委員会が別途定める。参考に、1 ページあたりの文字数は 1,200 字程度である（図表の分量によっても左右される）。

【投稿方法】　原稿のファイルを電子メールに添付して編集委員会宛（fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp）に送付する。電子付録がある場合は別途用意し、原稿とともに送付すること。

【校　正】　著者校正は原則として初校に限り、誤植の訂正にとどめる。

【著作権】　本誌に掲載された記事の著作権は森林遺伝育種学会に帰属し、著者は、本会ウェブサイトにおける記事の公開までに、著作権譲渡承諾書を編集委員会に提出して、その著作権を本会に譲渡する。加えて、本誌はクリエイティブコモンズ CC-BY-NC-SA（表示-非営利-継承）の国際ライセンス条件下で公開される。これにより掲載された論文等記事の著作権を保有する学会や著者の許諾を得ることなく、再配布や翻案が可能となる。ただし、条件全てに適合する必要性がある。

1. 【BY：表示】再配布または利用する場合には、引用元（クレジット）の適切な表示を行うこと、翻案した場合にはその旨を示す。
2. 【NC：非営利】営利目的での利用は認めない。
3. 【SA：継承】論文等記事を利用して派生した記事等二次創作物は、同じライセンス（CC BY NC SA）の下に提供される。

【特記事項】

1. 【優性・劣性について】　本文中に使用する優性・劣性は、顕性（優性）・潜性（劣性）と表記する。

【原稿の執筆要領】

1. 原稿の形式

原稿の体裁は森林遺伝育種学会のホームページに掲載される原稿テンプレートに基づく。執筆にあたっては、テンプレートを利用の上、体裁を十分確認すること。体裁に不備がみら

れる原稿は受け付けないことがある。原稿は、本文と図・表を合わせて 1 つのファイルにまとめる。原則、Microsoft Word による形式のファイルとし、不明点やファイル形式の希望がある場合は編集委員会に問い合わせること。

原稿は、A4 サイズ、縦置き、横書きとする。上下左右に 30 mm 程度の余白を設け、文字サイズは 12 ポイント、文字数は 1 行あたり 40、行数は 1 ページあたり 20 とする。各ページには、ページ番号と行番号（連続番号）をつける。外国語は、その必要がある場合に限り、使用を認める。見出しで使用する書体は、日本語は MS ゴシック体、英数字は Segoe UI 体、本文で使用する書体は、日本語は MS 明朝体、英数字は Times New Roman 体とする。生物名は原則として和名（カタカナ）とし、初出の箇所に学名（イタリック体）をつける。単位は国際単位系（SI）を用いる。句読点は「。」および「、」とする。

図は、カラー図を作成することができる。web 発行版においてカラー図が掲載されるが、冊子版ではモノクロ印刷された図が掲載される。

原稿の構成は、表紙、要旨（原著論文、総説および短報のみ）、本文、引用文献、図の説明、表、図とし、それぞれを以下のように作成する。

2. 表紙

最初に、原稿の種類を記載する。次に、原著論文、総説および短報では、表題、著者全員の氏名、所属先（以上、日本語と英語）、所属先住所（英語のみ）、責任著者の氏名と電子メールアドレスを記載する。解説および編集委員会が指定する記事（受賞研究や特集等）では、表題、著者全員の氏名（以上、日本語と英語）、氏名のふりがな、所属先、責任著者の氏名と電子メールアドレスを記載する。上記以外の原稿では、表題、著者全員の氏名、氏名のふりがな、所属先、責任著者の氏名と電子メールアドレスを記載する。原稿テンプレートを利用すること。

3. 要旨

原著論文と総説においては、和文要旨（500 字以内）とキーワード（5 つ以内）、それらに対応する英文要旨（250 語以内）とキーワード（1 つあたり 5 語以内）を記載する。短報においては、和文要旨は 400 字以内、英文要旨は 200 語以内とし、キーワードは原著論文、総説と同様の取扱とする。英文要旨については、原稿提出前に必ず英文校閲を受けること。

4. 本文

適宜、節に分けて、見出しを付けて記述する。原著論文と短報の場合は、通常、はじめに、材料と方法、結果、考察に分ける。謝辞がある場合は見出しを謝辞とし、本文の最後に記述

する。

5．引用文献

5-1．本文中の引用

本文中では、著者名のアルファベット順での併記を基本に、以下の例のように引用する。

例：（鈴木ら 2000；田中 1998）（田中・鈴木 1998）（Tanaka and Suzuki 2011）（Tanaka et al. 2011a）（Tanaka et al. 2011a, 2011b, 2020）（Abe 2020；Suzuki et al. 2000；田中 1998）あるいは『田中（1998）は…』

本文中の引用は、すべての場合で全角カッコを用いてくくる。複数の文献を併記する場合、著者名のアルファベット順に並べ、全角セミコロンを用いてつなぐ。日本語文献の引用の場合、著者名と年号の間にスペースを入れない。英語文献の引用の場合、著者名と年号の間に半角スペースを入れる。著者（著者が 3 名以上の文献は筆頭著者）と発表年が同一の文献がある場合、年号の後に小文字のアルファベットを付して区別する。同一著者の文献を併記する場合、年号を発表年順に並べて記す。

なお、印刷中のものは著者名に続けて『印刷中』『in press』と記載する。引用文献リストにも該当の文献を記すこと。未発表のものは、著者名に続けて『未発表』『unpublished』とつけて引用することができるが、その際、姓名を略さずに書く（英語表記の場合は名の頭文字と姓を記す。例：M. Tanaka）。引用文献リストには記載しない。

5-2．引用文献リストの作成

本文の後（謝辞の後）に見出しを付け、著者名のアルファベット順（同一著者の文献は発表年順）に引用文献の情報を並べたリストを記載する。

記載方法は、以下の例に従う。日本語文献では、著者の姓か名が一文字の場合、姓と名の間に半角スペースを入れる。2 名以上の著者がいる場合は、全角中点でつなぐ。著者名に続けて記す年号は全角カッコでくくる。英語文献では、名を（あればミドルネームと名を）イニシャルのみ大文字で表記する。その際、省略表記のピリオドはつけない。2 名以上の著者がいる場合は、半角コンマ＋半角スペースでつなぐ。著者名に続けて記す年号は半角カッコでくくる。なお、8 名以上の著者が連名となる文献は、冒頭 6 名と最終著者を表記し、その他の著者を省略記号『…』を用いて省略できる。

（雑誌）

松本麻子（2010）コナラ・ミズナラ・カシワの樹種識別と種間雑種の検出－AFLP マーカーを利用して－. 林木の育種 234: 9–12

原口雅人・木村 恵・大谷雅人・平岡宏一・高橋 誠（2021）埼玉県内におけるブナの天然集団および植栽された実生苗の遺伝的特徴. 森林遺伝育種 10: 70–79

Katsuki T, Shimada K, Yoshimaru H (2011) Process to extinction and genetic structure of a threatened Japanese conifer species, *Picea koyamae*. Journal of Forest Research 16: 292–301

Kuzmin DA, Feranchuk SI, Sharov VV, Cybin AN, Makolov SV, Putintseva YA, … Krutovsky KV (2019) Stepwise large genome assembly approach: a case of Siberian larch (*Larix sibirica* Ledeb). BMC Bioinformatics 20: 35–46

＊雑誌名は略称ではなく、正式名称を記載する。

＊年号以降のフォーマット（日本語・英語文献共通）:［論文タイトル］半角ピリオド＋半角スペース［雑誌名］半角スペース［巻］半角コロン＋半角スペース［開始ページ］en ダッシュ［最終ページ］

（書籍）

長谷川正美・岸野洋久（1996）分子系統学. 岩波書店, 東京

White TL, Adams WT, Neale DB (2007) Forest genetics. CABI International, Wallingford, Oxfordshire, UK

（書籍中）

生方正俊（2011）森の樹木の品種改良. 北方森林学会編, 北海道の森林, 242–248. 北海道新聞社, 札幌

Hamrick JL, Godt MJW (1989) Allozyme diversity in plant species. In: Brown AHD, Clegg MT, Kahler AL, Weir BS (eds) Plant population genetics, breeding, and genetic resources, 43–63. Sinauer, Sunderland, Massachusetts

（報告書）

林野庁中部森林管理局（2016）三浦実験林 50 年史－木曽ヒノキ林の永続に向けた天然更新技術の開発と検証－. 長野

鳥取県（2016）平成 27 年度鳥取県林業統計. 鳥取県農林水産部, 鳥取

Conkle MT, Hodgskiss PD, Hunter SC (1982) Starch gel electrophoresis of conifer seeds: A laboratory manual. USDA Forest Service General Technical Report PSW-64, Pacific Southwest Forest and Range Experiment Station, Berkeley, California

（ウェブサイト）

林野庁（2021）令和 2 年度森林・林業白書. https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/R2hakusyo/zenbun.html（2022 年 5 月 1 日アクセス）

Goudet J (2002) FSTAT, a program to estimate and test gene diversities and fixation indices (version 2.9.3.2). http://www2.unil.ch/popgen/softwares/fstat.htm（2016 年 12 月 14 日アクセス）

6. 図の説明

引用文献リストに続けて、改ページを行ったうえで、図の表題と説明を記載する。表題には、本文中の引用順に図–1 のような通し番号を付ける。続いて、本文を読まなくても理解できる程度の説明を書き加える。写真も図として扱う。

7. 表と図

表は 1 ページに 1 つずつ作成する。縦の罫線を省き、横の罫線もできるだけ省く。刷り上がり 1 ページに収まる大きさを限度とする。表の上に表題を記載し、本文中の引用順に表–1 のような通し番号を付ける。表の下に脚注を記載し、本文を読まなくても理解できる程度の説明を書き加える。なお、表については図化せず、表形式のままとする。

図も 1 ページに 1 つずつ作成する。図のフォントはゴシック体、および英数字はサンセリフ体（Arial、Helvetica など）とする。できるだけ解像度の高いものを用いる。図の上に通し番号を記載する。カラー配色された図が提出された場合、通常は、web 発行版がカラー、冊子版がモノクロ印刷原稿となる。そのため、作図にあたっては、モノクロ（冊子版）でも図の判読が容易なように留意すること。冊子においても図のカラー印刷を希望する場合には、投稿時にその旨を編集委員会に伝える。その際、カラー印刷に係る製版代金の全額を著者の負担とする。なお、図については、各オブジェクトが固定されたものを添付すること。図のサブパネルにアルファベットをつけるときは、(a) のように、アルファベット小文字を用い、半角カッコでくくる。

8. J-STAGE 電子付録

J-STAGE では、冊子体で提供できない付表や付図、映像、テキストデータなどを記事の電子付録としてアップロード・公開することができる。ファイル 1 件につき 50 MB、1 記事あたり最大 100 件のファイルを添付できる。アップロード可能なファイルの種類については J-STAGE の FAQ で紹介されているので参照すること。

電子付録の公開を希望する場合は、該当ファイルを原稿のファイルとともに投稿すること。その際、ファイル名には電子付録の見出し（付表–1、付図–1 など）を付し、それと認識できるようにするとともに、ファイル内には電子付録のタイトルを記載すること。

本文中では『J-Stage 電子付録付表–1』『J-Stage 電子付録付図–1』のように記載もしくは引用する。なお、本文から電子付録への参照リンクはできない。

9. その他

- 数値は 3 桁ごとにカンマで仕切る。
  例：1000→1,000、1234567→1,234,567

- 数値と単位の間に半角スペースを入れる。ただし度やパーセントについては入れない。
  例：10 kg、20 m、30°C、40%
- パラメータはイタリックにする。
- 括弧が続く場合は外側を角括弧とする。
  例：ヤクタネゴヨウ［*Pinus darmandii* var. *amamiana*（Koidz.）Hatus.］

【問い合わせ先】

投稿・執筆等に関する問い合わせ先は、森林遺伝育種学会編集委員会（E-mail: fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp）とする。

2012 年 4 月 12 日（投稿規定）、2012 年 6 月 5 日（執筆要領）制定
2021 年 5 月 16 日改定
2021 年 9 月 30 日改定
2022 年 9 月 1 日改定
2023 年 2 月 6 日改定
2023 年 11 月 17 日改定
2024 年 11 月 30 日改定